

2026年版：化学構造式を含む特許・文献調査ツール 徹底比較ガイド

全8ツールの機能対応状況一覧

	構造検索	Markush検索	OCSR(画像認識)	AI要約	クレーム比較	FTO一次
PatSnap	◎	◎	◎	◎	◎	◎
CAS SciFinder	◎	◎	?	◎	▲	▲
Derwent (DCR)	◎	◎	?	◎	?	?
Patentfield AIR	?	?	?	◎	◎	▲
Summaria	?	?	?	◎	◎	◎
WIPO PATENTSCOPE	◎	◎	▲	×	×	▲
ChemAxon	◎	?	?	×	×	×
PubChem	◎	?	?	×	×	×

公開一次情報に基づき、構造検索からFTOスクリーニングまでを「対応」「部分対応」「非対応」「未確認」の4段階で評価しています。

化学特許調査の5つの階層



各ツールの短評と推奨アクション

PatSnap： 最も広い機能明示

構造検索からFTOスクリーニングまで一貫したワークフローを公開していますが、複雑モジュールの理解が必要です。

CAS SciFinder： 化学研究の世界的基盤

構造・反応・Markush検索の信頼性が高い一方、クレーム比較等は「支援」の位置づけです。

Patentfield / Summaria： 日本語AI読解のスペシャリスト

日本語の大量査読やクレームチャート作成に強いですが、構造検索機能は別途確認が必要です。

WIPO PATENTSCOPE： 必須の無料公的基盤

無料でMarkush検索が可能であり、一次母集団の確認には極めて重要です。

導入・運用時の重要チェックポイント

- 【検索漏れリスクの確認（最優先）】：日本語AIツールを検討する際は、構造描画検索やMarkush検索の可否を実験デモで確認してください。
【データの精度検証】：
- PatSnapのOCSR（画像構造認識）精度などはベンダー自己申告のため、自社データでのプラインドテストを推奨します。
- 【検創の分離】：「構造探索」用途と「日本語調解・効率化」用途でツールを使い分ける構成が、2026年時点の最適解です。